

西クリ防災だより NO.1 2

西クリニック災害対策委員会

第12回防災訓練開催

関東大震災から100年



9月1日は『防災の日』です。1923年(大正12年)に発生した関東大震災が由来となっています。

一人一人が災害についての認識を深め、災害に対処する心構えを準備することを目的として設定されました。

今年は、関東大震災が発生してから100年の節目にあたり、各地で防災訓練が多く行われました。

西クリニックでも、毎年防災週間に合わせて災害訓練を行っていますが、今年は、災害伝言ダイヤルの体験を行いました。

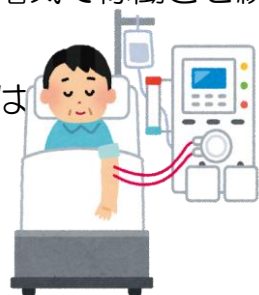
透析治療が災害に弱いのはなぜ？

人工透析治療は、多量の水と電気が必要となるため、災害による停電や断水でライフラインが断たれた場合、透析治療を継続していくことは非常に困難な状況となります。

例えば、標準的な血液透析の場合、1回の透析で一人当たり約120ℓの水道水が必要ですが、その他にも配管の洗浄や治療の準備のために水を使用するので、実質上は120ℓよりも多くの水が透析治療のために必要です。

また、電気に関しても水と同様、1回の血液透析が4～5時間かかるので、その間、人工腎臓機器を電気で稼働させ続けるための電力が必要となります。

このように、透析治療を安全に行うには多量の水と電気は必要不可欠なもので、どちらかが欠けただけでも治療を行うことは困難となります。



災害時には、西クリニックで透析が可能・不可能にかかわらず患者さんに連絡するように努めますが、電話の回線が込み合って繋がりにくく連絡がとれない場合があります。

そのため災害時には、災害伝言ダイヤルやホームページで西クリニックの状況を確認することをお願いしています。

災害伝言ダイヤルの利用は、非常時の連絡の手段としてとても有効です。是非操作方法を覚えておきましょう。

昨今の災害伝言ダイヤル運用状況

- 2022年12月東日本の大雪
- 2023年5月石川県能登地方の大雪
- 2023年7月東日本の大雨

で活用されました。地震だけでなく天候の不順による災害に対しても運用されています。

災害を身近なものとしてとらえ危機管理をしていく必要があります。



個々の備えと対策は？

- 災害伝言ダイヤル『171』の使い方を覚えておく



- 透析情報カードや常備薬など、緊急時に必要なものがすぐ持ち出せるように準備しておく。
- 医療救護所や避難所に行ったら、その場の管理者や医療者等に透析が必要であることを伝えてください。また、西クリニックとの連絡状況を伝えるとともに、西クリニックと連絡が取れない、透析が受けられないなどの時は、管理者や医療者等に相談し支援を求めてください。



災害伝言ダイヤル体験実施

8/31、9/1の2日間を利用して、各透析室にて災害伝言ダイヤルの体験をしていただきました。

予め患者さんに携帯電話と伝言ダイヤルカードを持参していただくよう連絡させていただいたので、当日たくさんの患者さんが訓練に参加することができました。

伝言ダイヤルカードの手順通りに操作はできたでしょうか？院長先生の伝言は聞けましたか？

災害伝言ダイヤル171の使い方	医療法人社団 博樹会 西クリニック		
①171をダイヤル	東京都台東区浅草橋5-5-10	TEL03-3851-5959	
②再生2を押す		FAX03-3865-9420	
③03-3851-5959をダイヤル			
④音声ガイダンスが流れたら1を押す			

今回の災害伝言ダイヤル体験で分かったことは、想定より操作ができない患者さんが多かったことです。

今後は患者さん全員が操作できるように、2024年2月より毎月1日に定期的に伝言ダイヤル体験を行っていく予定です。

操作が分からない場合、スタッフに声をかけて頂ければ、個別にご指導させていただきます。

最後に・・・

西クリニックでは、自力で避難できない患者さんのために、イーバックチェア、おんぶ紐、エアストレッチャー、担架など避難器具を揃えています。これらの避難器具の取り扱いをスタッフ全員が操作できるように訓練をしています。

このように西クリニックはいつ災害が起きても、患者さんが安心して避難できる体制を整えています。

災害時にはスタッフだけでなく患者さんの協力も必要になると思います。

災害時にご自分の行動を把握するためにも、患者さん全員にお渡ししている『患者さん用災害マニュアル』をこの機会に目を通してみてください。